

日本科学哲学会 若手研究助成一覧

2023年

村山正碩 「自己理解としての自己表現：R. G. コリングウッド『芸術の原理』に基づく自己表現の理論」

2022年

苗村弘太郎 「歴史科学における物語的説明の構造と正当化に関する考察—歴史学的論争の事例に注目して」

2021年

天本貴之 「Non-Sentential Utterancesの分析：動的意味論からの検討」
千葉将希 「フィクションとしての生物学的目的論：概念的・経験的擁護」

2020年

高谷遼平 「自然言語意味論における合成性概念の役割の解明」
山崎紗紀子 「情報フロー論と情報所有論理の統合に基づく情報の哲学の基礎的問題の解明」

2019年

横路佳幸 「人の質料形相論的な構成主義の可能性」
高取正大 「分析形而上学と経験科学の連続主義に対する批判的検討」

2018年

会場健大 「科学的推論の倫理学の試み」
清水右郷 「効果量 (effect size) 概念の哲学的意味に関する研究」

2017年

木下頌子 「種名の指示の理論に基づく形而上学的方法論の評価—芸術作品の存在論を手がかりに—」
野村尚新 「部分構造論理に基づく動的認識論理の構築」
鴻 浩介 「人工物としての行為—新しい実践的知識論」

2016年

大西琢朗 「構造化された帰結関係—非古典論理に対する推論主義的・証明論的意味論の基盤構築」
蝶名林亮 「道徳的個別主義と道徳的説明についての研究」

2015年

岩月 拓 「研究法に焦点を当てた科学の変化 (scientific change) の研究」
小倉 翔 「アプリアリな正当化と推論」

2014年

源河 亨 「価値知覚と知覚学習」
佐金 武 「時間旅行の (不) 可能性について：現在主義の観点から」
高橋優太 「ゲンツェンの無矛盾性証明への直観主義からの影響およびその哲学的意味」

2013年

島村修平 「推論主義に対する哲学的検討とそれをを用いた内容外在主義と自己知の両立問題解消の試み」
田中泉吏 「断続平衡説の再検討」

2012年

上田知夫 「信念報告の意味理解：信念述語の副詞説を用いた説明」
薄井尚樹 「「生得的な心」の可能性」

2011年

- 金子祐介 「認識論の形式化—カルナップのAufbauを中心に」
谷川 卓 「形而上学的原理の認識論的正当化に関する研究—ラムジエ的謙遜性をめぐる議論を題材として」
宮原克典 「「身体化された心」に相応しい志向性観の探究」

2010年

- 小草 泰 「視覚経験の透明性と色の形而上学についての研究」
笠木雅史 「「認知的地位」概念とその文脈依存性の解明—新たな文脈主義の構築に向けて—」
村井忠康 「知覚と概念—描写モデルに基づく概念説の探究—」

2009年

- 入江俊夫 「数学における問題と解決との関係と証明概念—『論理哲学論考』から『数学の基礎』に至るウィトゲンシュタインの数学の哲学の展開の意味—」
四津雅英 「発語内行為について—〈表向きの態度〉と〈社会的位置づけ〉の概念に基づく分析—」
山田圭一 「帰属者の文脈主義モデルを用いた認識的規範の多元性の解明—正当化の内在主義と外在主義の調停を目指して—」

2008年

- 小山 虎 「様相実在論に対するメタ存在論研究に基づく反論とその射程」
櫻木 新 「記憶と正当化」
吉満昭宏 「関連論理の自然な意味論」

2007年

- 荒磯敏文 「量化表現を用いた指示という概念を言語哲学の研究対象とするための理論的研究」
金田明子 「真理概念とその病理性の研究—意味論的アプローチと文脈鋭敏性アプローチの比較を通して」
森元良太 「進化論における確率概念の哲学的基礎付け」